

第47期

事業報告

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

株式会社NHKプロモーション

## 1. 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過および成果

2021年度まで2期続いた赤字決算から前期には業績を回復。当期も好調を維持することができ、売上高、営業利益は会社設立以来、最高の結果となりました。

社会全体は、コロナ禍による行動制限や外出自粛の影響を色濃く受けていた厳しい状況から脱却し、イベントを楽しむムーブメントや生活習慣が戻ってきました。

このタイミング・時機を逃さず、大型の海外展覧会やイベントを開催し、大勢の来場者を集め、グッズ・図録の販売でも大きく数字を伸ばすことができました。

これはコロナ禍の間、その苦境の中でアフターコロナを見込んで、地道に企画を準備してきた成果と言えます。実施にあたってはコロナ禍での経験を生かした様々な工夫や努力が実を結び、業績の向上につながったものと考えております。

売上については、コロナ禍により開催を延期した「マティス展」や「ガウディとサグラダ・ファミリア展」等の大型の海外展覧会が開催でき、例年を超える数の展覧会を開催したことや各展覧会でのグッズ・図録販売の強化、数年をかけて準備を進めてきた大型事業「ウォッチアート・グランド・エキシビション」の開催等に加え、コロナの影響を受けていた「京都賞授賞式」や「こども科学博」などの受注再開、さらには「超体験NHKフェス」等、受託事業への積極的取り組みなどにより126億円を超えることになりました。

またこの間、業務量の増加に対し個々の生産性の向上やアウトソーシングの推進により社内体制をコンパクトに留め、人件費等の固定費の増加を抑制、また以前からの「事業別収支管理の徹底」や「変動費率の抑制」などの経営改革を進める等、株式会社NHKメディアホールディングスの傘下子会社として、経営基盤の強化を図ってきたこともあり、営業利益は過去最高だった昨年をさらに上回る9.5億円を計上することとなりました。

具体的な業績は下表のとおりです。今期の売上高は、126億2千8百万円で、前期比32億3千2百万円の増収、営業利益は、9億5千6百万円、経常利益は、9億6千4百万円、当期純利益は、6億3千8百万円となりました。

区 分	金 額 (百万円)	構成比 (%)	前期比	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売 上 高	12,628	100.0	3,232	34.4
① NHKとの取引	1,971	15.6	▲285	▲12.6
② NHK以外との取引	10,657	84.4	3,517	49.2
営 業 利 益	956	—	337	54.5
経 常 利 益	964	—	303	45.8
当 期 純 利 益	638	—	▲84	▲11.7

## ① NHKとの取引

展示・展博の受託事業では、様々な展示イベントをNHKから受託しました。

防災の分野では、防災・減災を啓蒙する展示コンテンツや関連番組を紹介する「明日をまもるナビ防災展」を全国15会場で実施しました。

福祉の分野では障害のある方がつづった50編の詩を紹介する「第27回NHKハート展」を全国6会場で実施したほか、展覧会で紹介した詩50編を映像と朗読音声で紹介する「いつでもNHKハート展」を全国5会場で実施しました。また、「第28回NHKハート展」制作業務も受託しました。

教育・スポーツ分野では、30年を迎えた番組「天才てれびくん」と1万本の動画コンテンツが見られる「NHK for School」がコラボした「天才てれびくん×NHK for School展」、過去のNHK杯国際フィギュアスケート大会の名シーンを集めた「NHK杯フィギュアスケート展」をそれぞれNHKプラスクロス渋谷で実施しています。

また、制作部局とともに番組の世界観を再現した「せかほしミュージアム」を日比谷のオフィスビルで開催し、番組展の新たなスタイルを示すことができました。

技術の分野では、「NHK技研公開2023」、「NHK Tech EXPO 2023」、「Inter BEE NHKブース」の運営業務に的確に対応しました。

NHKとの共同事業の展覧会に関連したNHKの番組コンテンツを若年層に楽しんでもらうジュニアガイドの企画制作を受託したほか、8Kで文化財を紹介する番組「ヒミツの至宝さん」スタジオ収録支援業務、展覧会場で4Kの魅力をプロモーションする関連イベントを「どうする家康展」、「恐竜博2023」、特別展「海」の3つの展覧会にあわせてそれぞれ受託しています。

公開番組・イベント等の受託事業は、年間271本を実施。NHKグループの総力を結集させた「超体験NHKフェス」(東京)は2年目を迎え、地元との連携のもと公園通り周辺で開催、メイン会場のNHKホールでは大型の公開番組・イベント7本と多様な番組関連展示を並行させるなどして、4万人を超える来場者やSNS利用者に対して放送100年に向けた“新しいNHK”をアピールしました。このほか代々木公園や渋谷駅で開催した「NHKクラシックFes」では“放送×イベント×デジタル”の三位一体で事業を展開、プロの演奏家から学生までが広く参加できる機会を創出し、公共放送の価値を広く認識していただきました。

新たな事業では、小規模なケーブルテレビとも共催できる、コンパクトな「全国ケーブルテレビミニキャラバン」のコンテンツを開発して、全国12会場で展開し、NHK各放送局と地域事業者の関係強化に役立てました。

公開番組は、「NHK紅白歌合戦」「うたコン」「ザ少年倶楽部」を含め、NHKホールを中心に46本を実施。「ザ少年倶楽部」は、年度途中での番組終了に際し視聴者対応を遺漏なく行い、後継番組「ニュージュネ！」3本の運営も万全に取り進めました。

デジタル施策としては、各界トップクラスのゲストが毎回登場する「NHKアカデミア」やドラマ「デフ・ヴォイス」オンラインイベントの運営を担い、参加者に出演者らとの交流の場を提供して番組の視聴拡大を図ったほか、前年度に開発した「ワンワンありがとうメッセージ動画メールサービス」をファミリー向けイベントにおける応募落選者への補完施策として実施しました。

また、BS4K8Kの魅力を広くアピールするイベントとして、ラグビーワールドカップやNHK杯国際フィギュアスケート、全日本ブレイキン選手権等の大型スポーツ中継にあわせ、パブリックビューイング会場でトークイベントを行い、NHKの誇る放送技術の魅力を幅広い層に堪能してもらいました。

## ② NHK以外との取引

### ア. NHKとの共同事業

今期は10展18本の共同事業の展覧会をNHKとともに開催し、延べ308万2千人のお客様にご覧いただきました。春の展覧会では入場制限が残ったものの、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを契機に開催館が本格的に入場制限を撤廃し、コロナ禍前と同程度まで観覧者数が回復してきました。

3月から9月にかけて国立科学博物館と大阪市立自然史博物館の2館で開催した「恐竜博2023」は、NHKスペシャル「恐竜超世界」をはじめとしたNHKの恐竜プロジェクトと連携し、目標を10万人以上上回る57万人余りを動員しました。

春に東京国立博物館、秋に京都国立博物館で開催した特別展「東福寺」では、画家明兆の記念碑的大作「五百羅漢図」を修復後初公開するなど、禅宗美術の中心である東福寺の文化財を初めて大規模に紹介しました。

4月から8月にかけてはアンリ・マティスの世界最大規模のコレクションを所蔵するポンピドゥーセンターの全面的協力のもとに「マティス展」を開催しました。この展覧会は当初2021年に計画されていたものがコロナ禍で延期となった美術ファン待望の企画で、44万人余りの観客を動員し16億円を上回る売上を確保する結果となりました。

6月には特別展「古代メキシコマヤ、アステカ、テオティワカン」を東京国立博物館で開催し、その後九州国立博物館に巡回しました。古代メキシコの文物を集めた展示内容とNHKの4K映像を効果的に展示に用い、若年層からも高い支持を得ました。

同じく6月にはスペインの生んだ奇才の建築家アントニ・ガウディの傑作サグラダ・ファミリア聖堂に焦点を絞った「ガウディとサグラダ・ファミリア展」を東京国立近代美術館で開催し、その後滋賀、名古屋に巡回しました。3会場で50万人を動員し、売上高約11億円を計上することができました。

7月には国立科学博物館で特別展「海」を開催しました。迫力の4K大型映像や高さ4.7mのクジラの標本、4,500m級無人探査機ハイパードルフィンの実機などを展示し、夏休みの子どもたちの期待に応えました。

9月には東京都美術館で「永遠の都ローマ展」を開催し、その後福岡に巡回しました。世界最古の美術館のひとつであるカピトリノー美術館から門外不出の名宝「カピトリノーのビーナス」が来日し、話題を呼びました。これもコロナ禍で今期に延期された展覧会のひとつです。

10月に東京国立近代美術館で開催した「生誕120年棟方志功展」は棟方志功ゆかりの地である富山、青森を経て最終会場の東京に巡回した最大規模の回顧展です。富山、青森ではNHKの地域放送と連携して、全会場で入場者数目標を大きく超える結果となりました。

10月に東京国立博物館で開催した特別展「やまと絵」は日本絵巻の最高傑作、国宝の「四大絵巻」が集結した日本美術の教科書とも言える展示内容でした。混雑を予測して導入したオンラインによる土日完全予約制がシニア層への心理的ハードルになって入場者数は16万人にとどまりました。

2024年1月には東京国立博物館で特別展「本阿弥光悦の大宇宙」を開催しました。NHKと東京国立博物館の8K文化財プロジェクトで制作した高精細8K3DCG映像は展覧会のハイライトのひとつとなりました。この展覧会ではNFTの実証実験としてNFTカード付き前売券の販売を行い、ノウハウを蓄積しました。

以上の展覧会場で行ったアンケートによると、「価値実感度」の平均は93.9%、「コンテンツ接触喚起度」の平均は93.5%に上り、展覧会が視聴者リレーションの有効なプラットフォームとして機能していることが見て取れます。

コンサート等の共同事業は、ファミリー向け「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「ワンワンわんだーらんど」両事業をはじめ、年間26本を実施。異色のゲスト組み合わせによるNHKホールでの大型ライブ「初音ミク×鼓童スペシャルライブ」は、来場した若い世代の支持を得て、公共放送の価値実感度やBS施策への理解を高めるとともに、グッズ販売を通じて多くの営業利益を上げるなど、財政面でも共同事業の成果を上げました。初めて冬の実施となった「NHKバレエの饗宴」は、国内外の一流のバレエ団やソリストを揃えたラインナップが人気を呼び、BS8KやEテレでの放送にも注目が集まりました。先述の「NHKクラシックFes」の一環にも位置付けられた「NHK音楽祭」では、イスラエル・フィルの来日中止という不測の事態を迅速かつ的確な対応で収拾させることができました。

## イ. 自主事業

展覧会事業では、前期から引き続き、「高畑勲展」(三重、盛岡、静岡)、「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」(名古屋、横浜)、「水木しげる 魂の漫画展」(甲府)、「藤井フミヤ展」(延岡、八戸)等を各地で開催しました。

漫画アニメ系では新たに「ポケモン×工芸展」(金沢)、「手塚治虫 ブラック・ジャック展」(東京)を開発実現させています。これらの企画は全国から開催の要請があり、来期以降各地を巡回するべく調整しているところです。

日本美術の分野では今期新たに、大河ドラマ「どうする家康」ゆかりの文化財を徳川家康ゆかりの地で紹介するNHK大河ドラマ特別展「どうする家康」(東京、岡崎、静岡)、北東北の小さなお堂や祠にまつられた素朴でユニークな仏像・神像に焦点を当てた「みちのく いとしい仏たち」(盛岡、京都、東京)を主催しました。

海外の美術を紹介する展覧会としては「ジョルジュ・ルオー かたち、色、ハーモニー」(東京)、「ゴッホと静物画 伝統から革新へ」(東京)、「エッシャー不思議のヒミツ」(滋賀)を開催しました。

展示系イベントでは、文化財の保存技術を紹介する「日本の技フェア」を京都で開催したほか、日本各地の生活文化の中に見出したデザインを紹介するデザインミュージアムジャパン展をサンパウロで開催する一方で、国内でもこのプロジェクトを紹介する展示、フォーラム、ツアー等を実施しました。また、6月にはパテック・フィリップ美術館の所蔵する時計芸術の粋を紹介する「ウォッチアート・グランド・エキシビション」を東京で開催しています。

コンサート・イベントは年間114本の事業を受託しました。「いしかわ国民文化祭」情報発信業務(東京)では、番組「きょうの料理」と連動させて地域の食の魅力を紹介しました。「日中韓芸術祭」(韓国・全州市)や、「地域伝統芸能まつり」(東京)、「都民コンサート」(2本)などでも、発注者からの期待に応えることができました。

コロナ禍による中止から4年ぶりに再開した「こども科学博」「京都賞授賞式」(いずれも京都)では、NHKエデュケーショナルとの協力関係のもと企画制作・運営を進めることができました。

グループ連携の実を挙げた事業としては、そのほかにもNHKメディアホールディングス傘下5社が協同で臨んだ「2027年横浜国際園芸博覧会」があり、当社は幹事社としてテーマ館基本設計の全体管理と展示運営計画に取り組み、博覧会協会から高評価を得ました。続く2024年度の実施設計業務もコンペを通して受注することができ、3年後の開催に向け前進することができました。

「NTT東日本コンサート」や「川井郁子とN響の仲間たち」（いずれも東京）、「特別公演パブロ・エラス・カサド&牛田智大」（埼玉）や「ピアノ六重奏&クリニック」（静岡）、松本や新潟での地方公演など、当社制作イベントへの楽団起用や公演の運営・券売業務等の受託に加え、新たに年間63本の定期・特別公演の運営業務を請け負うなど、N響との連携強化も進んでいます。このほかコンサート関連では、「ステップコンサート」（東京、大阪）、「こころとからだに効く講演と音楽の集い」（東京）などを実施しました。

“食”関係では、「日本農業賞表彰式&コンサート」「ファーマーズ&キッズフェスタ」「食料フォーラム」「日比谷活性化イベント」（いずれも東京）において、農業分野における専門性やこれまで築き上げてきた関係者とのネットワークを活用して事業を成功に導きました。

コンテンツ制作の分野では「スイス時計文化紹介コンテンツ制作」、「日本港運協会PRコンテンツ制作」、「日本赤十字社防災教材コンテンツ制作」に取り組みました。

また、講演関連事業では、46件の講師派遣（講師派遣43件+ふくしまマスターズ大学3件）の実績を残すことができました。

## （2）対処すべき課題

NHKグループの中でイベントを中核事業とする唯一の会社として、豊かな文化事業を展開することで、人々に楽しさや感動、安らぎや喜びをもたらし、社会に貢献していくとともに、社会環境の変化に伴って多様化するニーズに的確に応え、魅力あふれるイベントを積極的に展開してまいります。

また、NHKと一体となって戦略的かつ効率的に事業展開することで、NHKの「公共的価値」の向上に寄与するとともに、グループ各社との協業をより一層深め、サービスの強化や新たなビジネス連携の開拓に挑んでいきたいと考えています。

こうした基本方針のもと、以下の重点施策に取り組んでまいります。

- ① 新しい時代にふさわしい新しいイベントの開発
  - ・「放送100年」と連動した新たなイベントの開発に取り組みます。
  - ・新たなテーマや技術、演出などによる「新しいイベント」の開発に挑戦します。
- ② イベント運営の専門性を生かしたグループ各社との連携強化
  - ・NHKグループらしいイベントの実現のため、各社とさらに連携し積極的な提案を行います。
  - ・各社との情報共有を強化し積極的な連携を目指すとともに必要な支援を行います。
- ③ 展覧会や各イベントを通して社会にNHKの価値を還元
  - ・リアルな感動・体験を届けることでNHKの公共的価値を最大化します。
  - ・イベントの場でのコミュニケーションによる若年層などへのリーチ拡大に貢献します。

④ ガバナンス体制の維持・強化

- ・ノンコア業務のアウトソーシングの推進とともに、新ERPへの準備、スムーズな移行に取り組み、業務の高度化と省力化を図ります。
- ・ITセキュリティへの意識を高め、トラブル等を回避します。

⑤ 職場環境と社員意識の向上

- ・「人材育成への注力」「評価の透明性の確保」「成長実感の向上」などにより、社員のモチベーションやロイヤリティをさらに高めていきます。

⑥ 経営基盤の強化

- ・発注においては物価高や人件費上昇を踏まえ、価格転嫁を考慮するとともに、事業ごとの収支管理の精度を上げ、適切な営業利益を確保します。

(3) 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

(4) 財産および損益の状況の推移

(単位 百万円)

区 分	第44期 2021年3月期	第45期 2022年3月期	第46期 2023年3月期	第47期(当期) 2024年3月期
売 上 高	2,194	4,872	9,396	12,628
営 業 利 益(△損失)	△517	△169	618	956
経 常 利 益(△損失)	△463	△125	661	964
当期純利益(△損失)	△528	△125	722	638
1株当たり 当期純利益(△損失)	△2,810円38銭	△667円94銭	3,844円89銭	3,753円28銭
総 資 産	2,470	2,429	4,665	4,812
純 資 産	1,420	1,294	1,771	2,073

(5) 主要な事業内容

区 分	主な事業内容	
NHKからの受託事業	<p>明日をまもるナビ防災展、第27回NHKハート展、いつでもNHKハート展、天才てれびくん×NHK for School展、NHK杯フィギュアスケート展、せかほしミュージアム、NHK技研公開2023、NHK Tech EXPO 2023、Inter BEE NHKブース運営業務、NHKジュニアガイド企画制作、8K文化財プロジェクト支援業務、どうする家康4Kプロモーション、恐竜関連イベント、海展4Kプロモーション、NHKホール・都内・関東での公開番組等運営、超体験NHKフェス、NHKクラシックFes、NHK全国学校音楽コンクール、ファンターネ！小劇場、全国ケーブルテレビキャラバン、全国ケーブルテレビミニキャラバン、チコちゃんに叱られる！笑顔を届けるステージ、大河ドラマ「どうする家康」ファンミーティング、ドラマ10「大奥」ファンミーティング、手話イベント展示体験コンテンツ派遣、NHKアカデミア、ワンワンありがとうメッセージ動画メールサービス、VRでよみがえるガウディ～サグラダ・ファミリアの秘密～</p>	
NHKとの共同事業	<p>恐竜博2023、特別展 東福寺、マティス展、特別展 古代メキシコマヤ・アステカ・テオティワカン、ガウディとサグラダ・ファミリア展、特別展 海、永遠の都ローマ展、生誕120年棟方志功展、特別展 やまと絵、特別展 本阿弥光悦の大宇宙、NHKバレエの饗宴、NHK音楽祭、おかあさんといっしょファミリーコンサート、ワンワンわんだーらんど、初音ミク×鼓童スペシャルライブ</p>	
自主事業	<p>展示・展博</p>	<p>高畑勲展、水木しげるの妖怪 百鬼夜行展、水木しげる 魂の漫画展、藤井フミヤ展、ポケモン×工芸展、手塚治虫 ブラック・ジャック展、NHK大河ドラマ特別展 どうする家康、みちのく いとしい仏たち、ジョルジュ・ルオー かたち・色・ハーモニー、ゴッホと静物画 伝統から革新へ、エッシャー 不思議のヒミツ、日本の技フェア、デザインミュージアムジャパン展、ウォッチアート・グランド・エキシビション</p>
	<p>コンサート・イベント</p>	<p>公文協コンサート事業、NTT東日本・N響コンサート、ステップコンサート、N響公演運営、都民コンサート、「横浜国際園芸博覧会」テーマ館基本設計・PM支援、日中韓芸術祭、地域伝統芸能まつり、ワンワンまつり わっしょいしよい！、こども科学博、京都賞、日本農業賞表彰式&amp;コンサート、ファーマーズ&amp;キッズフェスタ、食料フォーラム、「いしかわ国民文化祭」情報発信、古代出雲文化シンポジウム、True Colors SPECIAL LIVE、日本港運協会PRコンテンツ制作、日本赤十字社防災教材コンテンツ制作、スイス時計文化紹介コンテンツ制作、講師派遣</p>



(6) 主要な事業所等

東京都渋谷区

(7) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減数
54名	1名減

注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は含まれておりません。

(8) 親会社の状況

当社の親会社は株式会社NHKメディアホールディングスで、当社の株式170,000株を保有しております。これは当社の議決権の100%にあたります。

なお、NHKメディアホールディングスは、NHKの子会社にあたることから、当社はNHKの放送法上の子会社であります。

当社はNHKから、主に公開番組、美術展などの文化事業を受託しております。

(9) 親会社等との間の取引に関する事項

当社はNHKとの取引について、事前に定めた取引基準により、一般に公正かつ妥当な取引条件で実施しております。当社取締役会は、これらの取引が当社の利益を害するものではないと判断しております。

(10) 主要な借入先

借入先	借入額
(株)みずほ銀行	20百万円

## 2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 800,000株  
(2) 発行済株式の総数 170,000株  
(3) 期末株主数 1名  
(4) 株主の状況

株主名	持株数	持株比率
(株)NHKメディアホールディングス	170,000	100%

(5) その他株式に関する重要な事項

当社は、2023年5月26日開催の取締役会の決議に基づき、2023年6月14日付で自己株式18,000株を消却しております。

### 3. 会社の役員に関する事項

#### (1) 取締役および監査役の氏名等

(2024年3月31日現在)

地 位	担 当	氏 名	重要な兼職の状況
代表取締役社長 (非常勤)		有 吉 伸 人	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長
常 務 取 締 役	イベント事業センター長 (建設業担当取締役)	塚 口 功	
取 締 役	経営企画室長 管理部長事務取扱	佐 倉 一 徳	
監 査 役 (非常勤)		井 上 東	井上東公認会計士事務所代表

注) 当期の取締役および監査役の異動は、次のとおりです。

2023年6月23日付で、塚口功氏が常務取締役に、佐倉一徳氏が取締役に就任しました。また同日付で、小野昭一氏が常務取締役に、佐藤禎一氏が取締役(非常勤)を、高橋邦彦氏が監査役(非常勤)を退任しました。

2023年6月27日付で、有吉伸人氏が、株式会社NHKエンタープライズの代表取締役社長に就任、当社の代表取締役社長(非常勤)を兼務することとなりました。

#### (2) 当該事業年度に係る取締役および監査役の報酬等の額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数(人)
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	34,965	26,211	8,754	4人
監査役 (社外役員を除く)	—	—	—	0人
社外役員	4,449	4,449	—	2人

注) 使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

非常勤取締役1人、非常勤監査役1人に対しては、報酬を支払っておりません。  
報酬等の額については、千円未満を切り捨てております。

#### 4. 業務の適正を確保するための体制

当社が、業務の適正を確保するための体制として2007年5月23日開催の取締役会で決議し、2023年6月23日開催の取締役会で改定した事項は、以下のとおりです。

##### (1) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ① 当社は取締役、社員を含めた行動規範として「倫理・行動基準」、「行動指針」を定め、これらの遵守を図る。  
また、コンプライアンスを確保するため、「リスクマネジメント規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント推進会議」を設置し、全社的に法令遵守が確保される体制をとる。  
役員・社員のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス通報制度規程」、「通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。
- ② 取締役会については、「取締役会規則」を定め、その適切な運営を確保し、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に職務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。  
万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。
- ③ 同様に、社長、常勤役員ほかで構成する常勤役員会（経営会議、以下「経営会議」という。）は「経営会議規則」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。  
また、監査役は、「監査役監査規程」に従い、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。
- ④ コンプライアンス関連の研修、社内通達等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「職務権限規程」を遵守し、取締役の職務執行の透明性を確保する。

##### (2) 取締役の職務の遂行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ① 「株主総会議事録」、「取締役会議事録」、「経営会議議事録」については、適切かつ確実に保存・保管し、「経営会議議事録」については、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置く。
- ② 「文書管理規程」により、資料等の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

##### (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ① 当社は、当社の業務執行に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアル等を整備する。  
また、公共放送グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払う。
- ② リスク管理統括責任者を社長とし、リスク管理体制の整備・運用にあたる。
- ③ 親会社であるNHKメディアホールディングスの監査をもって内部監査とみなし、各部門のリスク管理状況を監査し、定期的に取り締り会および監査役はその報告を受ける。
- ④ 危機管理と予防的管理については「危機管理体制」を整備し、研修等を含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ① 職務権限および職制を定め、取締役の職務権限と責任および指揮命令系統を明確にし、経営に関する意思決定および職務執行を効率的かつ適正に行う。
  - ② 重要な意思決定については、常勤取締役等による経営会議などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設ける。
  - ③ 年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行う。
  - ④ さらに効率的に業務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討する。
- (5) 当社ならびにNHKグループにおける業務の適正を確保するための体制
- ① NHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
  - ② NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基づき、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。
  - ③ NHKの監査委員が当社に対し事業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、当社は、適切な対応を行う。
  - ④ NHKの「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」に基づき、リスクの発生防止に係る管理体制を整備し、NHKおよびNHKグループの業務の円滑な運営の確保を図る。
  - ⑤ 「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」に基づき、法令違反・内部規程違反等の不正行為等についての通報制度を整備するとともに、NHKグループに係るリスクについては、リスクマネジメント推進責任者は直ちにNHKのリスクマネジメント室に対して通報の内容等を報告する。
- (6) 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項
- ① 監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、人事評価等については、監査役の同意を得た上で決定する。
  - ② 監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。
- (7) 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制および監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。
  - ② 監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。
  - ③ 当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な扱いを行うことを禁止し、これを周知徹底する。
  - ④ 監査役は、親会社であるNHKメディアホールディングスによる監査の結果とその改善状況について報告を受け、定期的な情報交換を行う。

## 5. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

取締役会は年10回開催し、法定事項のほか、就業規則の改正等の承認と、四半期ごとの業務報告、リスクマネジメント関連報告、事業運営概況、内部統制の整備・運用状況などについて報告を行いました。

リスクマネジメント推進会議（社長、組織の長および部長で構成。監査役1名も出席）を毎月1回開催し、確実な情報共有と迅速な対応を行ってまいりました。また、リスクマネジメント活動計画を策定し、年間を通しての働き方改革の推進、情報漏えい対策、適正な勤務管理の徹底施策、「倫理・行動基準」の再徹底、適正経理の推進、各現場で発生した新たなリスク等について、活動内容の報告を行いました。

内部統制報告では、全社的な内部統制として26項目の質問に対して、NHKメディアホールディングスの内部監査室が整備状況、運用状況の評価を行いました。リスク点検活動として5項目の重点リスクを抽出し、対応状況の確認、対応後の評価、継続判断を行いました。

通報制度については、社内に内部通報窓口を整備し、加えてNHKグループの通報窓口の周知を徹底しました。

セキュリティ体制を強化するとともに、最新のITリスク情報の収集と社内での迅速な対応を行うため、経営企画室担当者とネットワーク運用を委託しているNHKテクノロジーズによる「IT情報連絡会」を毎月開催しました。

監査役は、取締役会のほか、リスクマネジメント推進会議、経営会議に出席しました。監査役は、会計帳簿等の監査および事業報告・計算書類の監査ならびに「内部統制報告」に関する状況の把握・助言を行いました。

NHKグループの一員として、より高いレベルの内部統制を構築するために、さらなる努力を続けていきます。

## 6. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室により、「統制環境」、「リスクの評価と対応」、「統制活動」、「情報と伝達」、「モニタリング」、「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性の評価を受けました。

その結果、2024年3月31日時点における当社の内部統制は、おおむね有効であるとの評価を受けました。